

官報

號外 昭和十六年二月二十六日

○第七十六回 衆議院議事速記録第十八號

昭和十六年二月二十五日(火曜日)

午後一時二十四分開議

議事日程 第十七號

昭和十六年二月二十五日

午後一時開議

- 一 代金引換郵便並集金郵便事務停止ニ關スル質問(佐竹晴記君提出)
- 二 時局ノ變遷ト政府ノ指導ニ關スル質問(尾崎行雄君提出)
- 三 歸還將兵ノ待遇ニ關スル質問(山道襄一君提出)

第一 昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲メ公債發行ニ關スル件)(政府提出)

第二 臨時陸軍材料資金特別會計法中改正法律案(政府提出)

第三 昭和十五年法律第六十九號中改正法律案(支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲メ公債發行ニ關スル件)(政府提出)

第四 昭和十六年度一般會計歳出入ノ財源ニ充ツル爲メ公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出)

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

一 政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

佐竹晴記君提出代金引換郵便並集金郵便事務停止ニ關スル質問ニ對スル答辯書

事務停止ニ關スル質問ニ對スル答辯書
尾崎行雄君提出時局ノ變遷ト政府ノ指導ニ關スル質問ニ對スル答辯書
山道襄一君提出歸還將兵ノ待遇ニ關スル質問ニ對スル答辯書
(以上二月二十五日受領)

代金引換郵便並集金郵便事務停止ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十六年二月十三日

代金引換郵便並集金郵便事務停止ニ關スル質問主意書
提出者 佐竹 晴記

今次支那事變並世界情勢ノ進展ニ伴ヒ一般郵便事務ハ益々繁劇輕便ヲ加ヘ來リタル一方人ノ資源ニ不足シ爲メ現業事務滯ヲ計リ其ノ圓滑迅速ヲ期スル爲メ代金引換郵便並集金郵便事務停止セラレタル趣ナルカ果シテ然ラバ若シ然リトセハ政府ハ之ニ依リ幾許ノ事務簡捷ヲ來シ延テハ何程ノ人ノ資源ヲ節約シ得タルカ假ニ得ル所アリタリトスルモ之ニ依リテ國民全般ノ蒙ムル不利不便ハ蓋シ甚大ニシテ失フ所却テ過大ナラスヤ

今代金引換郵便ニ付考フルニ此ノ制度ヲ活用スルトキハ
(一) 需用者ヨリ註文ノ通信
(二) 代金引換郵便ノ發送
(三) 到着局ニ於ケル代金引換現品交

付
(一) 依リテ取引ハ完了スルニ拘ラス之レカ休止ノ結果ハ
(二) 價格送金等ノ問合セ通信
(三) 之ニ對スル回答
(四) 註文通信並爲替又ハ振替貯金等
(五) 依リ送金

現金送付
(四) 到着局ニ於ケル配達
(五) 等々ノ手數ヲ要シ却テ勞力、時間、物資ノ消耗ヲ過大ナラシム
殊ニ一本ノ電信ニ依リ註文ヲ爲シ受託者モ代金同收ニ關スル些ノ不安ナク直ニ現品ヲ送付シ以テ迅速確實ニ取引ノ目的ヲ達シ得ルコトハ獨リ此ノ制度ノモノク爲シ得ル所ニシテ之カ休止ハ時局柄洵ニ遺憾ニ堪ヘス
集金郵便ニ至リテハ之カ休止ニ依リテ一應ハ事務ノ簡捷ヲ來シ得ルカ如シト雖ツテ此ノ制度休止ノ結果ハ
(一) 代金請求又ハ督促ノ通信
(二) 爲替又ハ振替貯金ニ依リ送金ノ手數

等ヲ餘儀ナクセラルルノミナラス受領證ト引換ニアラサレハ請求ニ應セサル取引(寧ロ之カ通例)ニアリテハ集金郵便制度コソ一般取引ノ實情ニ即シ且當事者ヲ満足セシムル唯一ノ簡易ナル方法ニシテ此ノ途ヲ斷タレタル結果ハ勢直接ニ取立ヲ爲スノ外ナルヘク之カ爲メ要スル車馬賃、勞力、時間等喪フ所蓋シ大ナリト謂ハサルヘカラス
惟フニ此ノ二制度ハ國民生活ト密著シ吾人ノ日常經濟、文化、教育其ノ他有ラユル面ニ於テ遍ク利用シ來リタルモノニシテ此ノ制度ノ活用ハ極度ニ人的、物的資源ヲ節約シ高度ニ國民生活ノ簡捷ヲ促進シ得ルモノト謂フヘク之カ休止ノ一般取引及ホス影響洵ニ甚大ナリト思料ス
敍上ノ如ク此ノ二制度ノ休止ハ通信當局シテモ人的、物的資源ヲ浪費シ逆效果ヲ生スル虞アルノミナラス國家全體トシテモ其ノ喪フ所極メテ大ニシテ却テ之カ休止ニ依リテ期セムトスル目的ニ背反スル結果ヲ生スルニハアラサルカ
加之右二制度休止ノ結果取引廢絶ノ餘儀ナキニ至レルモノ、業務ノ維持繼續ノ困難ニ陥リタルモノ、等相當多數ニ上リ例ヘハアル農器工業組合聯合會ノ如キハ爲ニ事業浮沈ノ岐路ニアリトサヘ傳ヘラルス事事例ハ甚ダ多ク且極メテ深刻ナリ
斯クテ物資ノ供給上重大ナル困難ヲ來シ戰時下經濟ニ於テ相當重大ナル結果ヲ生

シツアルハ洵ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ
政府ハ敍上ノ事實ニ鑑ミ速ニ此ノ二制度ヲ復活セラルルノ意思ナキヤ
右及質問候也

昭和十六年二月二十五日

内閣總理大臣 公府近衛 文麿

衆議院議長 小山松壽君 提出代金引換郵便並集金郵便事務停止ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

衆議院議員 佐竹晴記君 提出代金引換郵便並集金郵便事務停止ニ關スル質問ニ對スル答辯書

郵便業務ハ今次事變勃發以來軍事郵便又ハ時局關係通信等ノ躍進ニ伴ヒ著シク繁劇ヲ加ヘツツアルニ拘ラズ從事員ノ増加ハ之ニ比例セズ加之應召、野戰郵便ノ從軍又ハ時局産業ヘノ轉出等ノ爲多數ノ熟練者ヲ失ヒ能率ノ低下ヲ來シタルノミナラズ是等轉出者ノ補充亦意ノ如クナラズ當時多數ノ缺員缺勤者シ居ル實狀ニシテ從事員ノ負擔著シク増加セリ更ニ物的方面ニ於テハ派送集配用「ガソリン」其ノ他事業用物品ノ調達亦容易ナラズ業務運上ノ困難ハ日ヲ逐フテ深刻化シ郵便本來ノ使命タル通信ノ疏通ニ重大ナル支障ヲ來ス危險ニ當面スルニ至リタリ仍テ下ニ代金引換郵便並集金郵便事務停止ニ關スル質問ニ對シタルモノナリ而シテ時停止スルコトトシタルモノナリ而シテ右業務ノ停止ニ依リ利用者中ニハ不便ヲ蒙ル者ノ生ズベキコトハ豫想ニ難カラザル處ナルガ元來代金引換郵便並集金郵便ハ取扱一般郵便物ニ比シ著シク手數ヲ要スルモノナルニ拘ラズ其ノ草紙者ハ特要人ニ限定セラレ動モズレバ各種物品ノ強制販賣又ハ右ニ基ク代金ノ取立ニ利用セララル爲引換又ハ取立成績良好ナラズ即チ昭和十四年度ノ實況ニ依レバ代金引換ニ於テハ引換不能ノモノ約七十四萬又集金郵便ニ於テハ同ジク約二百七十四萬又多キヲ示シ之ガ還付ニ多大ノ勞費ヲ要スル爲一般基本郵便業務ノ運営ニ妨カラザル惡影響ヲ及ボシ居ル實狀ニ在リ時局下

重要通信ノ確實ナル運轉ヲ圖ランガ爲ニハ是等附帶業務ノ取扱ヲ一時停止スルハ又已ムヲ得ザルモノト思料ス事情右ノ如クナルガ人的及物的施設ノ充實スルニ於テハ之ヲ復活スル意嚮ナリ右及答辯候也

昭和十六年二月二十五日
逓信大臣 村田 省藏

時局ノ變遷ト政府ノ指導ニ關スル質問
主意書

右成規ニ據リ提出候也
昭和十六年二月十五日

時局ノ變遷ト政府ノ指導ニ關スル質問
提出者 尾崎 行雄

時局ニ多端、御憂勞ノ狀、拜察ニ餘リアルモ、本員ハ、次ノ數問ヲ提起スルヲ緊急已ムヲ得ザル儀ナリト信ズ。願ハクバ煩ハシキヲ忍ビ、靜察ヲ賜ハリ、且ツ明晰率直ナル答辯ヲ與ヘラレシコトヲ

(一) 政府ハ、大政翼賛會ナルモノヲ設ケ、近衛首相ヲ以テ、ソノ總裁ト爲シ、之ヲ政府ト表裏一體ノ機關ナリト稱シテ、巨額ノ國費ヲ支給シ、且ツ之ヲ管掌スル法律規則ハナリト稱シ、恰モ大政翼賛會ヲ以テ、法律の基準ノ外ニ在ルモノノ如ク稱セラルルガ、本員ノ解スル能ハザル所デアリ。本員ノ視ル所ニ據レバ、帝國ニ存在スル總テノ團體機關ハ、悉ク憲法上、法律上、又ハ勅令上、何等カノ規制ヲ受ケ、根據ヲ有シテ居ル。之ヲ有セザルモノハ、即チ未ダ國籍ヲ有セザル個人ト同ジク、無籍浮浪ノ團體タルヲ免レナシ。故ニ現在ノ大政翼賛會ハ、役所デモナク、商社デモナク、又政治結社デモナク、サナガラ國家組織ノ外ニ浮遊スル非國民的存在ノ如ク思ハルガ、政府ノ之ヲ然ラズト爲ス理由如何。近衛首相ソノ他當路者ガ、今日マデシテ未ダ疑惑ヲ氷釋スルニ足ラナイ。問題ハ、深刻デアアル。政府ハ更

ニ切實ナル解釋ヲ與ヘネバナラナイト信ズル。敢テ問フ、政府ハ更ニ慎重ナル研究ヲ加ヘ、而モ一日モ速ニ之ヲ明確ニ解決スベキ必要ト責任トヲ感ゼラレナシカ。

本員ハ、大政翼賛會ノ直チニ解消セラレシコトヲ希望スルノデアアルガ、一步ヲ讓ルモ尙ホ次ノ如キ疑問ヲ免レナシ。

(二) 大政翼賛會ハ、自ラ上意下達、下情上通ノ機關ナリト稱スルガ、上意下達下情上通ノ必要ナルコトハ、今サテ之ヲ説クマデモナイ次第デアツテ、畏レ多クモ我が皇室ハ、建國ノ肇ヨリ、此ノ點ニ深ク心ヲ用ヒテ、今日ニ至リ給フタノデアアル。

明治天皇ハ、殊ニ深ク此點ニ御注意アラセラレ、憲法ノ御制定ト、ソノ實施ニ付テ、如何ニ深ク大御心ヲ勞シ給ハレタカハ、苟モソノ一端ダモ窺知スル者ノ、恐懼ニ堪ヘザル所デアリ、而シテ大帝ガ帝國議會ヲ以テ、上意下達、下情上通ノ最高機關ト見ソナハシ、帝國議會ヲシテ、大政翼賛會ノ實ヲ舉ゲシメント御珍念アラセラレタコトハ、憲法ト共ニ公布シ給ヘル御告文ヤ詔勅ニ因テ、明瞭デアリ。

近衛首相ハ、兩者ノ嫡庶公私ノ別ハ、極メテ嚴明デアアルニモ拘ラズ、斷ジテソノ患ヒナシトセララルカ、

(三) 或ハ、大政翼賛會ノ組織者ハ、帝國ノ首相デアツテ、ソノ役員ハ、近衛首相ガ總裁ノ名義ヲ以テ、任命シタルモノデアアルカラ、大政翼賛會ハ、即チ一種ノ官衙ト看做スベシト唱ヘル者モアルガ、斯ノ如キハ、帝國首相タル近衛公ノ位置ヲ以テ、獨露ノ元首タリ、又宰相タル、ヒットラー、ヤスターリン、等ノ位置ニ比シ、之ヲ同視スル如キ誤解ニ陷ツタモノデアリナシカ。獨露ニハ、皇帝在サズ、憲法ハ至曲セラレテ、立法行政司法ノ區別モナク、時ノ執權者タル「ヒットラー」ヤ「スターリン」ガ、一切萬事ヲ、思フマニ勝手ニ執行シ得ルモノデアリ、即チ獨裁執權者制デアリガ、我が國體ト政體トノ下ニ於テハ斯ノ如キ獨斷專行ノ振舞ハ、斷ジテ許サレザルモノデアリ。敢テ問フ、政府ハ、近衛公ノ位置ニ對シテ、此ノ如キ誤解ナシトスルカ、寸毫ダモ、ソノ誤解ナシトスルカ、寸毫ダモ、動ノ餘弊ナシトスルカ。

(四) 現在ハ、首相ト、大政翼賛會ノ總裁トハ、同ジク近衛公デアアルガ、既往ノ實例ニ依レバ、此内閣モ早晚更迭スルニ相違ナイ。公ト意見ヲ異ニスル首相ガ、新タニ御任命ニナツタ時ハ、何人ヲソノ總裁ニ戴ク見込ナシ乎。モシ近衛公ガ、首相辭退後モ、尙ホ總裁ノ位置ヲ繼續スレバ、翼賛會ハ、政黨トナルデハナイ乎。ソノ時ハ、之ヲ政黨トナス豫定ナリトスレバ、公及ビソノ親近者ハ、國費ヲ以テ、政黨組織ノ豫備行動ヲ爲セルモノトナル。レハ世ヲ欺キ、法ヲ紊ル所ノ不正行爲デハアルマイ乎。

金額ノ多少ニ拘ハラズ、大政翼賛會ノ爲ニ、第二豫備金ヲ支出シタルヲ視テ、本員ハ不當違法ノ行爲ト做ス。況ン更ニ巷間傳フル處ニヨレバ數千萬圓ノ國費ヲ支給シテ、政黨組織ノ準備ヲ爲サシムルニ於テヤ。

(五) 疑問ハ尙ホ盡キナイ。近衛首相ハ、共產主義ハ、申スニ及バズ、社會主義ヲモ排斥セラルヤウニ見ユルガ、獨逸ハ現在國家社會主義國デアツテ、露西亞ハ、ソノ自稱スル通り、勞農共產主義共和國デアリ。從ツテ兩國ノ施設ハ、凡テ社會主義ト、共和主義ヨリ、割出サレテ居ル。ソノ中ニハ、我が國ノ學ベキ價值アルモノモ存スデアラウガ、若シ深ク注意ヲ加ヘテ、斟酌シナケレバ、且ツ社會主義ト共產主義トヲ輸入スルコトニナル虞レガアリハ、シナイ乎。

近衛首相ハ、今日ノ我が政府ノ方針ト施設トヲ以テ、ソノ注意ハ既ニ深厚周密デアリ、誓ツテソノ虞レナシカ。又ソノ傾向モナリト明答セラルルカ。

(六) 豫算委員會ニ於テ川崎君ガ大政翼賛會ニ付テ爲シタ質問ニ對スル各大臣ノ答辯ハ、何レモヘンダガ、此ノ類ノ問題ニ付テハ、最モ立派デアルベキ平沼内相ノ答辯ガ、特ニ不可思議ダ。内相ハ、翼賛輔翼ハ萬民ノ義務ダカラ、憲法違反ニ非ズト言ハレルガ、萬民共通ノ義務ニ對シ、特別ノ集團ヲ設ケ、一手專賣ノ形式ヲ現ハスノハ、宜シクナシト、本員等ハ云フノデアリ。天皇ヲ輔弼スルハ、萬民共通ノ義務デアアルガ、ソノ公定機關トシテハ、内閣デアリ。今モシ内閣以外ニ、天皇輔弼會ヲ組織シ、大政翼賛會同様ノ振舞ヲ爲サシメント企テルモノ起ラバ、政府ハ憲法違反ニ非ズトシテ、之ニ莫大ノ經費ヲ給與セントシテ、之ニ莫大ノ

(七) 以上ハ、實際政治トシテハ、稍側面ノ質問ノヤウニ見ヘルガ、本員ハ、此側面ノ質問ヲナスノ必要ヲ願ミテ、自ラ悲ム者デアリ。轉ジテ正面質問ニ進メバ、ソノ第一ハ、日支事變ノ現狀デアリ。本員ハ、ソノ内情ニ立チ入ルコトヲ避ケルガ、ソノ初メ、時ノ政府即チ第一次近衛内閣ハ之ヲ「局地解決」ト稱シ、若クハ一即

戰即決一ト稱シ、僅少ノ時日ノ間ニ解決シ得ベキモノノ如ク唱ヘラレタ。然ルニ事志ト違フテ、既ニ三年有半ヲ經過シ、近ク將ニ滿四年ニ達セントシテ居ル。此ノ責任ハ獨リ政府ニ歸スベキモノデハナシ、國民全部ノ齊シク負フベキ所トスルモ然シナガラ事ノ實情ハ國民ヲシテ更ニ詳知セシムベキモノガアルノデハナシカ、本員ハ問ヒタイ、政府ハ國民ヲシテ此ノ上詳知セシムル必要ハナシ、知ラシムベキ必要ノ實情ハ、今日マデニ既ニ漏ストコロナク知ラセテ居ルト謂ハルルカ。本員ハ新聞雜誌等ノ報道評論ニ不足ヲ感ジ、且ツ往々聞ク所ノ吏僚民間ノ偶語ニ不安ヲ感ズルガ故ニ、此ノ間ヒヲ起スノデアル。政府ガ國民ヲ信ジテ、更ニ詳細親切ニ披露セラレシコトヲ希望スル。言フマデモナク、ソレガ、國民の一致ヲ促シ、勇氣ヲ促シ、努力ヲ促ス最善ノ要素デアラカダ。政府ハ今日以上ニ言路ヲ洞開シ新聞雜誌ノ報道範圍ヲ擴大スルノ意ナキカ。

(八) 本員ノ未ダ解セザルハ、近衛首相ノ重要聲明ニ對スル海外反響ノ稀薄ナ一事デアアル。近衛首相ハ、曾テ支那ニ對シ、領土ノ慾望ヲ有セズ、戰費ニ對スル賠償金ヲモ要求シナイト云フ重要ナル聲明ヲ發シテ、内閣ヲ去ラレタ。斯ノ如キ意義ノ深い聲明ハ、日清、日露兩戰役ノ際ニモ聞カズ、又歐洲大戰中ノ時モ、未ダ曾テソノ比ヲ見ナカッタ寛弘ノ態度方針デアアル。此重要ノ聲明寛弘ノ態度ニ對シテハ、獨リ汪兆銘ノミナラズ、蔣介石トイヘドモ異議ナク、支那全國民ハ、雙手ヲ舉ガテ賛成スベク、否、英米兩國ノ政府及ビ國民モ、翕然トシテ好感ヲ表スベキモノノデアアル。然ルニソノ事ナク、却ツテ益ハ何故デアラウ乎。政府ハ、彼等ノ實情ヲ究メズシテ、率爾ニ此重要ノ宣言ヲ發シタノデアルカ、而シテソノ以後モソノ説明ニ努メナイノデア

ル乎。若クハ本員等ノ未ダ聞カザル所ノ隱レタ事實ガ、潛ンデ居ルノデアアル乎。總テハ對手國ノアルコト、彼ヲ知り已レヲ知り、緩急ヲ計ツテ對處セバナラナイノデアアルガ、我ガ外交機關ノ組織活動ニハ、遺憾モ支障モノナラズ。近衛首相ハ、如何ニ此不可思議千萬ナ事實ヲ觀察シ、又考究シテ居ラレノデアアル乎。深クソノ原因ヲ究メテ、之ヲ根治シナケレバ、將來ノ國際關係ニ於テモ、重大ナル支障ヲ來スベキ憂ガアル。(九) 更ニ問ヒタイノハ、大臣責任ノ大義デアアル。日支事變ノ如キ重大ノ事件ヲ惹起シ、若クハ事變ニ際會シタ時ハ、閣員ミナ身命ヲ賭シテ、報效ヲ圖リ、輕々シク進退シテハナラナイコトハ、古今内外ノ事例ヲ援用スルマデモナク、萬人周知ノ重臣タル者ノ大節デアアル。若シ萬止ムヲ得ザル事情ニ迫ラレ、中途ニ辭職スル場合ニハ、上、陛下ニ對シ奉ツテ謝罪スルト同時ニ、下萬民ニ對シテハ、ソノ願末ヲ公表シ(用兵上ノ秘密ニ觸レザル限り)一ハ以テ罪責ノ所在ヲ明カニスル、一ハ以テ國民ヲシテ後事ヲ善クシ、一ハ以テ國民ヲシテ後セシメ、以テ國民奉公ノ誠ニ、寸毫ノ弛廢ナカラシムルコトヲ期セバナラズ。若シ又自己ノ不明微力ノタメニ、骸骨ヲ乞フタトスレバソノ後ハ門ヲ杜ゲテ世ト絶チ、公人トシテ再ビ世ニ出デザルノ義ヲ守ラネバナラズ、然ルニ事變以來未ダ滿四年ニナラザルニ我ガ内閣ハ四ツビ更迭シタ。本員ハソノ原因ヲ知ラザルモ、窃ニ之ヲ以テ君ニ事ハ國ニ盡ス忠誠壯烈ナル士風ノ衰頹カトモ慨嘆スルノデアアル。若シ斯ノ如ク慨嘆スルコトガ、本員ノ誤解デアリ、過慮デアルナラバ幸デモ、本員ハ、個人ノ事ヲ論ズルモノデナイ、我ガ臣節ノ隆替消長ノ跡ニ就テ申スノデアアルガ、近衛公、平沼男ハ再ビ出ラレタ人トシテ、之ヲ如何ニ解セラル乎。國家ノタメ、天下ノ疑ヒヲ解カレン事ヲ切望スル。

(十) 帝國ト英米兩國トノ關係ハ、頗ル複雜多岐ノヤウニ見エラガ、ソノ根本ハ單純デアアル。不割讓、無賠償ト云フガ如キ意義明確ナル言辭ヲ以テ、帝國前途ノ方針ヲ發表スレバ、露支モ、英米モ必ズ之ヲ諒解シ、無根ノ誤解ヲ一掃シテ、危惧ヨリ生ズル敵視反抗ノ現情ヲ改メシムルガウ。本員ハ此意味ニ於テ、彼等第三國ノ當今ノ誤解ヲ改メシムル事ハ決シテ困難デハナカラウト信ズルノデアアル。例ヘバ東亞ノ新秩序トハ、歐米諸國ガ從來保有シ來ツタ所ノ特權ヲ排除シ、人種平等、機會均等、門戶開放ナド、白晝公然主張シ得ベキ事態ヲ聲明スルノデアレバ、何レノ國モ、之ニ反對スルコトハ出來ナイ。タトヘ反對シテモ、外交手段ヲ以テ、之ヲ一掃スル事ガ出來ル。ノミナラズ我ガ皇道ハ、此ノ如キ公明正大ナル行動ヲ命ズルデアラウ。蘭領及ビ佛領印度ニ對シテモ歐米諸國ノ特權ヲ排除シ、ソノ資源ノ供用ヲ公正ナラシメルノガ、帝國前途ノ目的ナラバ、佛、蘭ト雖モ、強テ之ニ反對ハシマイ。況ヤ英米ヲヤダ。具體的ニ、我ガ目的ヲ明示セザルタメ、關係列國ノ危惧ト反抗ヲ招クノデアアル。別ノ言葉デハ、強テ以外ニハ、獲得スル事ノデキナイ特權ヲ得シトスレバ、英米ト開戦セザルヲ得ナイコトニナラカモ知レナイガ、道義ノ許ス範圍内、即チ第三者ノ是認シ得ル範圍内ニ於テ、問題ヲ解決スル決心ナラバ、目下ノ難局ヲ打開スルノハ不可能デハナイ。帝國ノ公明正大ナル方針モ、尙未誤解サレ歪曲サルヲ免レズシテ、遂ニ英米トモ衝突シ、時ヲ同ジクシテ、支那及ビ英、米、露四箇國ヲ敵トシテ、戰ハザルベカラザルノ形勢ニ馴致シタルモ、戰ハザルハ希フ所ニアラズトスルモ、亦已ムヲ得マイ。名ノ正シクシテ義ノ順ナル限り、決シテ退避スベキデハナイ、勇往邁進スベキデアラウ。

前ノ日清戰役ニ方リ、三國干涉ニ屈シテ、遼東半島ヲ還付シタルガ如キハ、本員ノ遺憾ニ堪ヘザル所デアアル。但シ今日ノ戰爭ハ、局部ノ戰場ノ勝利ノミヲ見テ、満足スベキデナイ。二十餘年前ノ世界戰爭ニ當リ、戰場ノ勝利ハ獨逸ノ占ムル所トナツタガ、尙ホ降参ノ憂キ目ヲ見タ。故ニ戰場ノ勝利モ、勿論大切ダ、戰場以外ニモ國家興亡ノ分ルル場面ガアルコトニ深ク留意セバナラナイ。今ヤ對米ノ關係ハ、頗ル切迫シタト謂ハレル。政府ハ外交上既ニ全力ヲ

盡シテ、此ノ上ノ展開ヲ試ムル餘地
全ク無イハ限リガアルガ、萬人ノ力
ニハ限リガナシ。本員ハ力ヲ盡シテ
求ムルベシ。餘地ガアリソウニ觀測
スル、廣ク天下ニ諸ヒ、天下ト共ニ
恢弘ノ道ヲ開クニ努メラルベキ筈ト
思フガ、近衛首相ノ所見如何。

(十二) 此ノ外ニモ問ヒタイコトハ、
澤山アルガ、今回ハ之ヲ省略シ、最
後ニ政治ノ要諦ニ關スル一事ヲ質問
スル。本員ハ政治ハ身ヲ以テ範ヲ示
スベキモノト解シテ居ル。政府ガ民
間ニ行ハシメタイコトハ、政府自ラ先
ヅ行ハネバナラヌ、又民間ニ行ハシ
メタクナイコトハ、政府自ラ先ヅ行
ハヌコトニシナケレバナラヌ。例ヘ
バ消費ヲ節減セシメント欲スレバ、
政府自ラ先ヅ消費ヲ節減シテ、民間
ニ倣フベキ模範ヲ示シ、政府ガ民間
ニ先ヅシテ行フコトヲ以テ、政治ノ
要諦ト心得テ居ル。

今ヤ政府ハ生産擴充ヲ圖リ、事業ノ
能率ヲ増進センタメ、全國各般ノ業
務ニ對シ、齊シク整理統合、統一ヲ
勸奨シテ居ラル。本員ハ之ヲ理ニ
於テ極メテ正シイコトト思フ居ル。
此ノ際、政府ハ政府各省ノ統合整理
ヲ行フベキデハナイカ。取分ケ陸軍
省ト海軍省トヲ合併シ、兩省割據ノ
弊ヲ打破シ、ソノ精神的融和協調ニ
努メ、以テ能率ノ劃期的増進ヲ圖ル
ベキデハナイカ。是ヨリ先キ、陸海
兩省ヲ合併シテ、單一ナル國防省ヲ
作ルベシトノ議ガアツタ。政府ハ此ノ
際之ヲ決行シ、以テ模範ヲ民間ニ示
ス勇氣ト用意ハナイカ。是レ本員ガ最
終ノ一問トシテ首相ノ明答ヲ聽カ
ント欲スル所デアル。

右及質問候也

昭和十六年二月二十五日
衆議院議長小山松壽殿
衆議院議員尾崎行雄君提出時局ノ變遷ト
政府ノ指導ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯
書差進候

〔別紙〕

衆議院議員尾崎行雄君提出時局ノ變遷
ト政府ノ指導ニ關スル質問ニ對スル答
辯書

- 一 既ニ屢々言明シタル如ク大政翼賛會
ハ帝國憲法第二十九條ニ謂フ所ノ法律
ノ範圍内ニ於テ適法ニ存立スル結社ニ
シテ、法律の基準ノ外ニ在ルモノニ非
ズ、即チ大政翼賛會ハ治安警察法第三
條ノ「八事ニ關スル結社」ニ該當ス、故
ニ治安警察法中政事上ノ結社ニ關スル
規定ノ適用ナシト雖モ、其ノ他ノ結社
ニ關スル規定ノ適用ヲ受クベク、又大
政翼賛會ノ個々ノ行動ニ付テハ各當該
法規ノ適用ヲ受クルモノトス、
- 二 大政翼賛會ノ國家機關ニ對スル關係
ハ之ニ協力貢獻セントスルモノニ過ギ
ズ、
大政翼賛會ノ行フ翼賛ガ憲法上ノ統治
機關タル帝國議會ノ行フ所ノ法律上ノ
特定ノ效果ヲ伴フ翼賛ト其ノ性質ヲ異
ニスルコト明カニ大政翼賛會ハ帝國
議會ト同一ノ活動ヲ爲スコトヲ目的ト
スルモノニ非ズ、又帝國議會ニ干渉シ、
之ヲ指導シ若ハ之ヲ左右セントスルガ
如キコトノ有リ得ベカラザルコトハ其
ノ設立ノ目的及趣旨ニ鑑ミ極メテ明瞭
ナリト思料ス、
- 三 昨年八月ノ新體制準備會ニ於ケル聲
明及今議會ニ於ケル屢次ノ演述ニ依リ
明瞭ナルモノト信ズルモ我國體ノ下ニ
於テハ外國ニ於ケル獨裁權者制ノ如
キハ夢想ダモスルコトヲ得ザルモノト
思料ス、
- 四 大政翼賛會ノ總裁ハ內閣總理大臣ノ
職ニ在ル者ニ當ルベキコトハ大政翼
賛運動規約ニ明記セラレアリ、而シテ
去ル八月ノ新體制準備會ニ於ケル言明
ニ於テ謂ヘルガ如ク、國內新體制ノ確
立ハ實ニ一內閣、一黨派、一個人ノ要
請ヲ遙カニ超エタル國家的要請ニ基キ
モノナルヲ以テ大政翼賛會ノ總裁ハ內
閣總理大臣ノ職ニ在ル者ガ之ニ當ルコ
ト當然ナリ、
- 五 政府ノ方針ト施設トハ一ニ我ガ國體
ノ本義ニ基キ肇國ノ大精神ヲ發揚スル

- ニ在リ、我ガ國體ニ反スルガ如キ一切
ノ主義及運動ハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハ
ズ、絕對ニ之ヲ排除シ斷斷スルノ決心
ト用意ト有スルモノナリ、
- 六 政府屢次ノ聲明並ニ以上述べタル所
ニヨリ承セラレ度シ、
- 七 支那事變ノ本質、國際事情ノ真相等
ニ付キテハ事情ノ許ス限リ政府ハ夙ニ
之ヲ國民全般ニ徹底シテ來リタル次
第ニシテ今後モ益々努力スル所存ナリ、
- 八 所謂近衛聲明ニ對シテ所期ノ如キ反
響ヲ表ハレサルハ吾方ノ眞意ヲ遮閉ス
ルガ如キ蔣側ノ逆宣傳ニ依リ妨ゲラレ
タルコト並ニ利己的動機ヨリ英米等ガ
殊更ニ吾國ノ眞意ヲ理解セントセザル
コト等種々ノ原因アルベシト思考セラ
ル、政府トシテハ之等ノ原因ヲ除去セ
ンガ爲メ外交機關ノ活動ヲ敏活ナラシ
ムル等萬般ノ方策ヲ講ジ居レリ、
- 九 本大臣ガ再び大命ヲ辱ウスルニ至リ
タルコトハ洵ニ恐懼感激ニ堪ヘザル次
第ナリ、榮任ヲ辱フ限リハ死力ヲ
盡シテ難局ニ當リ、以テ 聖慮ヲ安
ジ奉ランコトヲ期スルモノナリ、
- 十 皇道ヲ四海ニ宣布スルハ我ガ不動ノ
國ニタルコト謂フヲ俟タザル所デリ、
之ヲ悲觀スルモノニ非ズ、正ヲ履ンデ
懼レザルモノニ非ズ、全力ヲ盡シテ帝國ノ
眞意ヲ理解セシメンコトヲ期スルモノ
ナリ、
- 十一 行政機構ノ改正ニ付キテハ政府ハ
十分考究ヲ重ネ必要ナル改新ハ之ヲ斷
行スル所存ナリ、然レドモ陸軍省及海
軍省ヲ合併シテ一省ト爲スコトニ付キ
テハ其ノ必要ヲ認メズ、
- 十二 右及質問候也

昭和十六年二月二十五日
衆議院議長小山松壽殿
衆議院議員尾崎行雄君提出時局ノ變遷ト
政府ノ指導ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯
書差進候

日本國民ノ眞姿ヲ顯現シタルコトニ對シ
テハ國民ノ齊シク感謝感激措カサル所ナ
リ之ヲ爲メ衆議院ハ國民ノ總意ヲ表現シテ
屢々感謝ノ決議ヲ爲シタルハ出征將兵ノ勞苦
ニ對シ其ノ功ニ酬ユル爲メハ國家トシテ
凡ソ規矩準繩アリ當局亦之ニ從ヒテ遺漏
ナキヲ期シ萬全ノ方途ヲ講ジツツアルハ
勿論ナリ併シナカラ論功行賞ハ別トシ戰
地又ハ在營中ニ於ケル戰傷病者ハ其ノ治
療靜養ヲ國費ヲ以テシテ全力ヲ傾倒シテ
奮戰努力シ爲ニ心身ヲ勞シタルニ原因セ
ル發病者アリ現在ノ施設ヲ以テシテハ之
ニ對シ満足ナル待遇ヲ爲ス能ハサルニ非
スヤ又爲ニ歸還將兵ニシテ精神上又ハ肉
體上ノ苦痛ヲ治療靜養ニ要スル物質上ノ
負擔トニ惱ムモノナシトセザルニ非スヤ
又爲ニ職務從業ニ堪ヘ得スシテ歸還後折
角就職シナカラ難業ノ已ムナキニ至リ生
活ノ資ヲ乏失フモノ亦ナシトセザルニ非
スヤ又中ニ歸還兵トシテノ優待期間カ
餘リニ短ク僅ニ三箇月ニ過キサルカ故ニ
靜養中ニ其ノ期間ヲ經過シ就職ノ機ヲ逸
シテ失業狀態ニアルモノナシトセザルニ
非スヤ或ハ出征中家族ハ事變ニ處スル
國家政策遂行ニ影響シテ失業產ノ
悲境ニ陥レルモノナシトセザルニ非スヤ
此ノ外幾多ノ同情スヘキ困難ノ運命ニ遭
遇セルモノナキヲ保シ難シト思惟ス若シ
之アラハ國民ノ感謝感激ハ空シキニ至ル
モノト謂フヘシクノ如キ事實ノ存在セ
サルコトハ萬人ノ共ニ斯ル境遇ニ懷惱スル
リ而シテ萬一ニモ斯ル境遇ニ懷惱スル
還將兵カ一人ト雖存スルアラハ是レ決
シテ出征者ヲ俟ツ所以ニ非ス國家ノ責任
ハ實ニ大ナリ政府ニ於テ之ヲ調査對策ニ
遺憾ナキヲ期シツツアルコトハ信シテ疑
ハスト雖衆議院ハ屢々出征將兵ニ對シテ
感謝決議ヲ爲シタルハ今歸還將兵ヲ迎
フルニ當リ該決議ノ結實ノ一トシテ之ニ
對シ衆議院議員ガ政府ノ所信ヲ確ムルコ
トハ當然ニシテ且其ノ必要ナルヲ認ム
右及質問候也

衆議院議員山道襄一君提出歸還將兵ノ待遇ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員山道襄一君提出歸還將兵ノ待遇ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、質問ノ御趣旨ニ付テハ洵ニ御尤ノ思料セララルモ其ノ第一點タル「歸還後發病シタル者ノ處遇」ノコトニ付テハ政府ニ於テ鋭意研究ノ上夫々施設ヲ講ジ之ガ萬全ヲ期シツツアリ

即チ陸海軍省關係ニ於テハ「軍人軍屬公務ニ起因シタル傷病疾病治癒ノ後再發シタル者ノ治療ニ關スル勅令」ニ依リ軍人軍屬ニシテ在職在隊中ニ治療ヲ受ケ治癒シタル者離職離隊ト爲リタル後該傷病疾病再發又ハ増悪セル者ハ勿論、在職在隊間治療ヲ受ケザルモ離職離隊後六ヶ月以内ニ傷病疾病ノ爲入院治療ヲ出願シタル時ハ該傷病疾病ガ公務ニ起因シタル場合ハ之ニ入院ヲ許可シ官費ヲ以テ治療スルノ途ヲ拓キアリ

又厚生省關係ニ於テモ規程ノ改正ヲ爲シ、召集解除又ハ除隊後傷病ノ爲六ヶ月以内ニ出願スレバ傷病軍人療養所ニ入所セシメ或ハ國費ヲ以テ官公私立ノ病院、療養所ニ委託入院セシメ又ハ一般開業醫ニ就キ治療ヲ受クルコトヲ得ル様措置セリ

而シテ右ノ外昭和十三年以來國庫助成金ニ依リ各道府縣ヲシテ實施セシメツツアル召集解除者生業援護事業ニ於テモ從來歸還後三ヶ月以内（昭和十六年度ヨリ六箇月以内ニ延長ノ豫定）ニ醫療費ノ交付ヲ願出タルトキハ其ノ疾病ガ公務ニ起因シタルモノナルト否トヲ問ハズ且ツ援護期間ニ制限ナク醫療費ヲ交付スルハ勿論必要アルトキハ其ノ期間中本人並ニ家族ノ生活費ヲ補給シ病氣治療ノ後生業ニ復歸スル爲援護ノ

要アル者ニ對シテハ生業費ヲ給與シ、或ハ生業資金融通ノ途ヲ講ジ、勞務者トシテ就職セントスルトキハ一般ニ優先シテ就職ヲ斡旋シ且ツ就職準備金ヲ給スル等萬全ノ方途ヲ講ジツツアルトコロナルモ、尙以上ノ各施設ニ該當セザル者ノ生シタル場合ノ措置トシテ恩賜財團軍人援護會ノ歸還軍人援護事業ノ委囑ヲ受ケ之ヲ各地方廳ニ行ハシメツツアリ、歸還傷病軍人ノ處遇ニ就キテハ萬遺憾ナキコト信ズルモ猶將來一層考究シ遺漏ナキヲ期サントス

二、次ニ出征軍人ノ家族ニシテ國策遂行ニ伴フ影響ヲ被リ失業倒産等ノ如キコトアリテハ眞ニ憂フベキコトナルヲ以テ斯ル事態ニ立至ラザル様種々之ガ對策ヲ講ジツツアリ

即チ今次事變勃發スルヤ中小商工業者ニ對スル援護施設トシテ產業委任委員制度ヲ設ケ之ヲシテ積極的ニ家業ノ維持經營ニ協力セシメ、農山漁家ニ對シテハ各種團體等ヲシテ勤勞奉仕ノ方法ニ依リ援護ヲ促シ、或ハ道府縣、市町村等ヲシテ軍事扶助法又ハ國庫助成金ニ依リ軍人援護事業ニ依リ生業扶助ノ積極的活用ヲ圖ラシメ、又應召軍人タル中小商工業者ニ對スル物資ノ配給割當ニ當リテハ適當ナル措置ヲ講ゼシメ或ハ商業組合又ハ工業組合加入金ノ減免ヲ行ハシムル等能フ限りノ方途ヲ講ジ以テ主働者ノ應召出征ニ因ル家業ノ維持經營ニ支障ナカラシムル様努力シ來リタルモ以上ノ諸對策ノミニテハ遺漏ナキヲ保シ難キ虞アルヲ以テ之ガ對策ニ付テハ猶充分考究ヲ遂ゲ遺憾ナキヲ期セントス

右及答辯候也

昭和十六年二月二十五日

陸軍大臣 東條 英機

官報號外 昭和十六年二月二十六日

衆議院議事速記第十八號 議長ノ報告

海軍大臣 及川古志郎
厚生大臣 金光 庸夫
〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一昨二十四日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

樺太開發株式會社法案
重要機械製造事業法案
工作機械製造事業法案中改正法律案
日本製鐵株式會社法案中改正法律案
貸家組合法案
住宅營團法案
醫療保護法案
國民勞務手帳法案
勞働者年金保險法案
恩給法中改正法律案
義務教育費國庫負擔法中改正法律案
小學校令ノ改正ニ伴フ恩給法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案
外國爲替管理法改正法律案
不動產融資及損失補償法中改正法律案
臨時資金調整法中改正法律案
兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法律案
朝鮮銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ關スル法律案
朝鮮銀行法中改正法律案
臺灣銀行法中改正法律案
產業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案
輸出補償法中改正法律案
東亞海運株式會社法案
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
（第三號）昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案
提出者 川崎 克君 安藤 正純君
江藤源九郎君

（第一號）昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案
提出者 川崎 克君 安藤 正純君
江藤源九郎君

官幣大社出雲大社造營ニ關スル建議案
提出者 依 孫一君 島田 俊雄君
櫻内 幸雄君 原 夫次郎君
沖島 鎌三君 高橋圓三郎君
銅其ノ他重要鑛物増産ニ關スル建議案
提出者 適正金納小作料設定ニ關スル建議案
提出者 杉山元治郎君 三宅 正一君
川俣 清音君
（以上二月二十二日提出）

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
八紘一字ニ關スル再質問主意書
提出者 生田 和平君 西村 茂生君
肥料國營竝値下斷行ニ關スル質問主意書
提出者 國畫手工工作科教員ノ養成機關ニ關スル質問主意書
提出者 羽田武嗣郎君
（以上二月二十二日提出）

一去二十二日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ
第二部選出決算委員 岩元榮次郎君
第七部選出決算委員 野方 次郎君
一去二十二日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ
第三部選出 豫算委員 岡田喜久治君（北吟吉君補關）

第五部選出

請願委員 杉山元治郎君(阿部茂夫君補闕)

第六部選出

請願委員 河合 義一君(加藤鐵造君補闕)

第八部選出

豫算委員 清水徳太郎君(前田房之助君補闕)

一、去二十三日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
昭和十四年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)外五件委員

山本 厚三君 池本甚四郎君
窪井 義道君 田村 秀吉君
野口 喜一君 淺沼稻次郎君
井上 知治君 伊藤 五郎君
石井徳久次君 石坂 繁君
菊池 良一君 小泉 純也君
塚本 三君 豐田 牧君
永山 忠則君 匹田 銳吉君
星島 二郎君 増永 元也君

一、去二十三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
木材統制法案(政府提出)委員
辭任紅露 昭君 補闕松川 昌藏君
借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付外一件委員)
辭任中野 治介君 補闕牧野 良三君

一、昨二十四日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ
第一部選出決算委員 飯村 五郎君
第四部選出建築委員 須永 好君
第五部選出建築委員 田中 邦治君
第八部選出決算委員 増永 元也君

一、昨二十四日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
昭和十四年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)外五件委員
委員長 山本 厚三君

理事

池本甚四郎君 窪井 義道君
田村 秀吉君 野口 喜一君

一、昨二十四日常任委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ
決算委員 之通君(委員石井徳久次君理事高見 昭君(理事野方次郎君去昨二十四日理事辭任ニ付其ノ補闕)

理事紅露 昭君(理事野方次郎君去昨二十四日委員辭任ニ付其ノ補闕)

一、昨二十四日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
第二部選出 高見 之通君(岩元榮次郎君補闕)
決算委員 高見 之通君(岩元榮次郎君補闕)

第七部選出 紅露 昭君(野方次郎君去昨二十四日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ)
借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付外一件委員)
辭任菊地養之輔君 補闕佐竹 晴記君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、本日ノ日程ニ掲ゲマシタル質問一乃至三ハ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマ
シタ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス——日程
第一乃至第四ハ、同一委員ニ付託シタル議
案デアリマスカラ、一括議題トナスニ御異
議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第一、昭和十二年法律第八十
四號中改正法律案、日程第二、臨時陸軍材
料資金特別會計法中改正法律案、日程第三、
昭和十五年法律第六十九號中改正法律案、
日程第四、昭和十六年度一般會計歳出ノ財

源ニ充ツル爲メ公債追加發行ニ關スル法律案、
右四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、
委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長松田正
一君

第一 昭和十二年法律第八十四號中改
正法律案(支那事變ニ關スル臨時軍
事費支辨ノ爲メ公債發行ニ關スル件)
(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
第二 臨時陸軍材料資金特別會計法中
改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 昭和十五年法律第六十九號中改
正法律案(支那事變ニ關スル一時賜
金トシテ交付スル爲メ公債發行ニ關ス
ル件)(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
第四 昭和十六年度一般會計歳出ノ財
源ニ充ツル爲メ公債追加發行ニ關スル
法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一、昭和十二年法律第八十四號中改正法律
案(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨
ノ爲メ公債發行ニ關スル件)(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十六年二月二十四日
委員長 松田 正一
衆議院議長小山松壽殿

報告書
一、臨時陸軍材料資金特別會計法中改正法
律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十六年二月二十四日
委員長 松田 正一
衆議院議長小山松壽殿

報告書
一、昭和十五年法律第六十九號中改正法律
案(支那事變ニ關スル一時賜金トシテ
交付スル爲メ公債發行ニ關スル件)(政府
提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十六年二月二十四日
委員長 松田 正一
衆議院議長小山松壽殿

報告書
一、昭和十六年度一般會計歳出ノ財源ニ充
ツル爲メ公債追加發行ニ關スル法律案
(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十六年二月二十四日
委員長 松田 正一
衆議院議長小山松壽殿

報告書
一、昭和十六年度一般會計歳出ノ財源ニ充
ツル爲メ公債追加發行ニ關スル法律案
(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十六年二月二十四日
委員長 松田 正一
衆議院議長小山松壽殿

○松田正一君 只今議題トナリマシタ昭和
十二年法律第八十四號中改正法律案外三件
ノ委員會ニ於ケル經過並ニ結果ニ付テ御報
告ヲ致シマス
先ヅ昭和十二年法律第八十四號、即チ支
那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲メ公債發
行ニ關スル法律、此ノ改正案デアリマス、
支那事變ニ關スル經費ニ付キマシテハ、七
十一議會カラ今期議會ニ至ルマデ、其ノ財
源ニ充ツル爲メ公債ヲ發行スル權能ヲ、此
ノ法律デ得テ居ルノデアリマスガ、今回更
ニ臨時軍事費ノ四十八億八千万圓ノ追加計
上ヲ必要ト致シマスノデ、其ノ所要金額中、
九億二百八十餘萬圓ハ、一般會計及ビ特別
會計ヨリ繰入金等ヲ以テ之ヲ賄ヒマシテ、
其ノ不足致シマスル三十九億七千七百十餘
萬圓ヲ公債財源ニ求メントスル案デアリマ
ス、結局支那事變ノ經費ハ、是デ以テ合計
致シマスレバ、二百二十三億三千五百餘萬

報告書
一、臨時陸軍材料資金特別會計法中改正法
律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十六年二月二十四日
委員長 松田 正一
衆議院議長小山松壽殿

報告書
一、臨時陸軍材料資金特別會計法中改正法
律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十六年二月二十四日
委員長 松田 正一
衆議院議長小山松壽殿

報告書
一、臨時陸軍材料資金特別會計法中改正法
律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十六年二月二十四日
委員長 松田 正一
衆議院議長小山松壽殿

次ニ昭和十六年度一般會計支出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案、此ノ法律案ノ内容ハ、昭和十六年度一般會計ノ歲出入總豫算追加第一號ニ計上致シテ居リマスル所要金額十一億三千八百八十餘万圓ノ中、普通歲入七百十餘万圓ヲ差引キ致シマスシタ、其ノ殘リノ不足額十一億二千四百六十餘万圓ヲ公債財源ニ求メントスルモノデアリマシテ、即チ囊ニ議了致シマスタル昭和十六年度一般豫算ノ公債發行額十八億七千九百二十九万圓餘リニ之ヲ追加セントスルモノデアリマシテ、結局昭和十六年度ノ一般會計ニ於キマシテハ、總額三十億三百九十餘万圓ノ公債ヲ發行スルコトナリマス

次ニ昭和十五年法律第六十九號中改正法律案デアリマスガ、是ハ支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲メ公債發行ニ關スル法律ノ改正案デアリマシテ、只今ノ所公債ヲ發行出來得ル額ハ一億六千四百二十萬圓トナツテ居リマスルガ、之ヲ増額致シマシテ六億三千二百七十萬圓ニ改正ヲ致シ、四億六千八百五十萬圓ヲ増加セントスルモノデアリマス

次ニ臨時陸軍材料資金特別會計法中改正
法律案デアリマスガ、此ノ法律案ハ臨時陸
軍材料資金特別會計法ノ第二條ニ一千万圓
ト、又三條ニ一時補給シテ借入レル金額五
千万圓、都合合ハセテ六千万圓ヲ以テ運用
致シテ居リマスルガ、事變地ニアル軍需品
ノ材料及ビ原料ノ取得數量ガ、段々ト殖エ
テ參リマス等ノ理由ニ依リマシテ、第三條
ノ五千万圓ヲ二億圓ニ改正セントスル法律
案デアリマス

委員會ハ、以上四件ハ其ノ質ニ於テ異ナル所ハアリマスケレドモ、他ニ財源ヲ求メルト云フ點ニ付テハ共通致シテ居リマスノ

タカ 諸シイコトハ速記録ニ於テ料簡ヲ願
ヒタイノデアアル、唯本年度ノ公債發行額ヲ
各種合計致シマス、是デ七十五億七千四
百萬圓餘ニナリ、昨年度ニ比シテ五億五千
餘萬圓ノ増額ト云フコトニナルノデアリマ
シテ、尙ホ昨年度ニ於テ公債發行ノ出來得
ル額デ、マダ未發行ノ分ハ今ノ所十四億圓
餘デアリマスカラ、之ヲ三月中ニ發行致シ
マシテモ、尙ホ十億圓内外ノモノハ昭和十
六年度ニ繰越サレルコトニナリマス、仍テ
昭和十六年度ニ於キマシテハ、公債發行額
ガ約八十五億圓以上ニ達スルモノト見ラレ
テ居リマス、此ノ公債ノ消化ト産業資金或
ハ物の人的動員等ニ付キマシテハ、各委員
ヨリ熱心ナル御質問ガアツテ、又此ノ公債

消化ト産業資金ノ捻出ニ付テ、其ノ源泉タル國民貯蓄ノ總高ノ目安ヲドレ位ニ置イテ居ルカ、又此ノ振合ヒヲドウ云フ風ニスルカト云フヤウナ御質問モアリ、又外地ニ於ケル經費支辨ノ爲ニ公債ヲ發行スル分ハ、成ベク外地ニ於テ其ノ公債ヲ消化セシメタラドウデアルカト云フヤウナ御質問、ソレカラ利潤問題ニ付キマシテハ、土地ノ利潤ト公債ノ利潤、株式ノ利潤ト公債ノ利潤ノ

開キガ大千過ギルデハナイカ、之ヲドウスルカト云フヤウナ意味ノ御質問、又軍人ニ對スル一時賜金ノ處置ガ遲レテ居ルガ、ドウクノ理由デアルカト云フヤウナ意味ノ御質問、其ノ他一般會計追加要求ノ財源ノ公債ニ求メテ居ルガ、其ノ額ガ餘リニ多イデハナイカ、或ハ稅收入其ノ他ニ依ツテモツト公債ヲ少クスルコトガ出來ヌノカト云フ意味ノ御質問ガアリマシタガ、是等ニ付キマシテ政府ハ答辯ヲ致サレマシタ、之ヲ一括シテ御報告申上ゲマスルト、公債消化ノ源泉デアル國民貯蓄ハ、昭和十五年度ニ於キマシテハ百二十億ト押ヘテ居タツノデアリ

度ハ政府ノ資金ノ撒布モ多イコトデアルヲ
 ラ、國民貯蓄ノ目標ヲ百三十五億圓ト置イ
 タノデアルト云フ答辯ガアリ、此ノ百三十
 五億圓ノ國民貯蓄ヲ、七十五億圓ダケハ公
 債ニ、残り六十億ハ產業資金ニ廻シタイト
 云フ意味ノ答辯ガアリマシタ、又公債財源
 ニ依ツテ外地ノ經費ヲ支拂フ場合ハ、成ベ
 ク外地ニ於テ公債ヲ消化セシメタイ、公債
 ノ利廻ニ付テハ成ベク他ノ利廻トノ幅ヲ少
 クスルコトニ努力スルト云フ意味ノ御答辯
 ガアツタノデアリマス、軍人ニ對スル一時
 賜金ノ處置ガ遅クナツテ居ルガ、調査ガ複
 雜デアルカラ遅クナツテ居ルノデ、本年度
 ニ於テハ相當ヲ發令ヲ見マスト云フ答辯ガ
 アツタノデアリマシテ、委員會ハ昨二十四

日午前後ニ互ツテ開會致シマシテ、此ノ四案ヲ一括シテ質問ハ全部打切り、之ヲ一括シテ討論ニ入リマシタ所、委員宇賀四郎君ヨリ、此ノ四案全部原案通り賛成ラスルト云フ意見ガアリ、樋口君ヨリ之ニ賛成ガアツテ、討論ハ終結致シマシテ、採決ニ入り、之ヲ委員會ニ諮リマシタル所、委員會ハ全會一致ヲ以テ之ヲ可決致シマシタ、以上簡單デアリマスルガ御報告ヲ申上ゲマス

○議長(小山松壽君) 四案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認ママス、仍テ四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○服部畸市君 直チニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案（支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）

第二讀會（確定議）

臨時陸軍材料資金特別會計法中改正法律案

第二讀會（確定議）

昭和十五年法律第六十九號中改正法律案（支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル件）

第二讀會（確定議）

昭和十六年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

第二讀會（確定議）

○議長（小山松壽君）別ニ御發議モアリマ

セヌ 第三議會ヲ省略シテ、四案トモ委員
長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)
○服部崋市君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ政府提出、借地法中改
正法律案及ビ借家法中改正法律案、右兩案
ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、
其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ—— 借地
法中改正法律案、借家法中改正法律案、右
兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、
委員長ノ報告ヲ求メマス—— 理事江原三郎
君

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

借地法中改正法律案（政府提出、貴族
院送付） 第一讀會ノ續（委員長報告）
借家法中改正法律案（政府提出、貴族
院送付） 第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十五日
理事 江原 三郎

致シマシテハ、目下法制局ニ於テ審議中デア、全國ニ施行シタイノデアル、恐ラク本年ノ三月一杯マデニハ施行シタイ積リデアル、本法案ガ成立致シマシタ時ニハ大體四月カラ施行シタイ、斯ウ云フ風ニ答辯サレマシタ、又他ノ質問ハ、借地人ニ對シテ建物買取ノ請求權ヲ認メテ置イテ、地主ノ方ニハ土地買取請求權ヲ認メナイト云フノハ、甚ダ不公平デハナイカ、斯ウ云フ風ニ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ノ答辯ト致シマシタハ、土地ノ買取請求權ヲ地主ニ認ムルト云フコトハ非常ニ困難デア、隨テ之ヲ實現スルト云フコトハ容易デナイカラシテ、折角調停ノ手續モアルノデア、此ノ調停手續ヲ利用致シテ運用ノ上ニ於テ萬全ヲ期シタイ、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、更ニモウ一ツノ主ナル質問ハ、今日ノヤウニ防空設備ヲ非常ニ必要トシテ居ルニ當ツテ、本法案ガ成立スルト云フト、借家人、借地人ノ同意ガナケレバ、假令本造家屋ヲ變ヘテ、防火設備ヲスル爲ニ凡ニル設備ヲシヨウトシテモ出來スデハナイカ、借地人、借家人ガ同意シナケレバ、土地家屋ノ明渡シヲ求ムルコトガ出來ナイノデア、隨テ防空設備ヲシヨウトシテモ出來ナクナルデヤナイカト云フ質問ニ對シマシタハ、政府トシマシテ、近時防空設備ヲ完全ニスルト云フコトハ最モ必要デア、ソコデソレニ對スル法案ヲ出シタイト考ヘテ居ツタノデア、マダ其ノ用意ガ十分ニ出來テ居ラスコトヲ遺憾トスル、併シナガラ本法案ガ通過致シマシテモ、現在本造家屋ヲ取毀シマシテ、サウシテ全然不燃性ノ家屋ニ變ヘルト云フヤウナコトハ、資材ノ關係上多クヲ期待スルコトハ出來ナイ、隨テ現在ノ本造家屋ノ儘、之ニ對シテ防火設備ヲスルヨリ外ニ仕方ガナイノデア、此ノ程度デアレバ恐ラク借地人モ、借家人モ反對ハシナイノデア、隨テ本法案ヲ成立サセ

マシテモ、防空設備ニ付テハ餘リ不都合ハ起ラスノデハナイカト云フヤウナ答辯デアリマシタ、其ノ他重要ナル質疑ガアリマシタノデアリマス、概ネ解釋ニ關スル質問、運用ニ關スル質問デアリマシテ、其ノ詳細ハ速記録ヲ御覽願ヒタイト存ズルノデアリマス

委員會ハ本日質疑ヲ終了致シマシテ、討論ヲ用ヒズ採決ニ入リマシテ、滿場一致ニ案トモ原案通り可決サレタ次第デアリマス、以上御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

議アリマセスカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議デアリマスカ、傍聽人ノ退場ヲ命ジマス

議員田淵吉君懲罰事犯ノ件
(午後一時四十六分秘密會ニ入ル)
(午後二時二十九分秘密會ヲ終ル)

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ公開致シマス、傍聽人ヲ入場セシメマス、田淵吉君ノ入場ヲ許シマス、秘密會議ノ結果ヲ報告致シマス、秘密會議ニ於テハ議員田淵吉君懲罰事犯ノ件ヲ議決致シマシタ、仍テ其ノ議決ニ基キ宣告致シマシタ、議員田淵吉君ニ對シテ議院法第九十六條第一項第三號ニ依リ三日間ノ出席停止ヲ命ジマス

是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後二時三十三分散會

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ